サロベツだけで繁殖する鳥
シマアオジ・ミコアイサ
～シマアオジ・ミコアイサ報告会～

2018 年 11 月 17 日(土) 13:30-15:30
サロベツ湿原センター　天塩郡豊富町上サロベツ 8662

開会
13：30
挨拶・司会　田中美恵子（NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク事務局長）

講演
13：35-14：05
・写真と映像で見るサロベツのシマアオジとミコアイサ
　　富士元寿彦（動物写真家）
14:05-14:35
・シマアオジとミコアイサをサロベツに残すために
　　長谷部真　（NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク）

休憩
14：35-14：40

対談
14：40-15：30
　コーディネーター　有山義昭（稚内自然保護官事務所首席自然保護官）
　1.　種の保存法に指定されたシマアオジと日ロ渡り鳥会議
　2.　講師に対する質問
　3.　対談：サロベツのシマアオジとミコアイサの保全に向けて
　　対談者：富士元寿彦　長谷部真

閉会 15:30

講演要旨

写真と映像で見るシマアオジとミコアイサ

富士元寿彦（動物写真家）

かつてシマアオジは、「北海道の草原で普通に見られる夏鳥」だったのですが、それは昔話になりました。近年は、サロベツ原野のごく一部の場所で見られるだけになっているのが実状です。かろうじて少数の番いが、繁殖をしているだけなので、絶滅の危機にある状態だと言えます。

「原野のフルート奏者」と呼ばれているオスが囀る様子をはじめ、サロベツで生きるシマアオジの可憐な姿を、動画を含めた写真で紹介します。写真を通して、まさに「風前の灯火」にあるシマアオジを守るため、私たちに何ができるのか？何をするべきなのか？考えてもらうきっかけになると嬉しく思います。

ミコアイサのオスは、生殖羽の白黒模様から「パンダガモ」の別名で、バードウオッチャーたちからは親しまれているカモです。そして、あまり知られていませんが、サロベツ砂丘林内にある沼が日本で唯一の繁殖地になっています。が、その実態はほとんど知られていません。

サロベツのミコアイサも、他の地域と同じく春先と晩秋の渡りの時期に多く見られ、砂丘林内で繁殖している者は少数です。ミコアイサも昔は比較的簡単に親子を見ることができました。が、久しぶりにこの夏、砂丘林内の沼を踏査した結果、確認できたのはたった 1 羽のヒナを連れた親子だけでした。水辺の草や水面の水草が繁茂している沼が多く悪条件もあり、「見られなかったからいない。」とは言えませんが、以前と比べ減っているのが感じられました。因果関係にあるかどうかは不明ですが、林内の沼や沼沢地も、原野と同じく乾燥化が進んでおり、なくなっている小さな沼もあります。

国内唯一の繁殖地ですが、その実態が不明のまま繁殖するミコアイサがいなくなるのではないか？という、一抹の不安も感じます。取り越し苦労であることを願いたいのですが・・・。

知られていないミコアイサの親子とヒナの成長する姿を中心に、写真と映像で紹介します。

シマアオジ

ミコアイサ

シマアオジとミコアイサをサロベツに残すために

長谷部真
（NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク）

2018 年のサロベツにおけるシマアオジの繁殖つがい（雄のさえずり位置）数は 25 つがいだった（日本野鳥の会調査）。雌や餌運び、幼鳥も確認されたが、2017 年の 31 つがいより減少し、分布域は縮小し、新たな繁殖地は発見されなかった。2018 年の繁殖期は低温だったため、つがい数の減少は年変動の範囲内という見解もあるが、中国では 2018 年もシマアオジを含む小鳥の密猟が摘発されたため、予断を許さない状況が続いている。一方で、中国では 2017 年にシマアオジの消費が違法となり、香港ではシマアオジの中継地保全のための会が開催され、国際会議でシマアオジの保全について話し合われるなど、中国国内や国際的な場での取り組みが進んでいる。サロベツでは今後も毎年繁殖調査や生息調査を継続し、動向を見守りながら、繁殖環境の改善や土地購入による繁殖地の保全対策を行うことが望まれる。

ミコアイサはユーラシア北部で繁殖し、ヨーロッパ、中央アジア、東アジアの温帯域で越冬する。日本では本州・九州・四国で越冬し、北海道を渡りの季節に通過する。以前から日本で唯一世界的な繁殖分布の南限に当たるサロベツの砂丘林で、富士元寿彦氏により繁殖が確認されている。繁殖記録は 1961 年の報告以来ないためか、環境省のレッドリストに記載されていない。2018 年は、富士元氏の協力の元、砂丘林でミコアイサの繁殖状況調査を行った（日本野鳥の会調査）。4 日間の調査の結果、確認された母子は一組で、雛は 1 羽だった。2012 年に富士元氏が同じ範囲を踏査した際には 5 つがいを確認したため、近年は減少傾向にあると考えられる。砂丘林の湖沼群は農業開発などにより水位が低下しており、干上がってしまった場所もある。加えて、近年幌延町で行われている砂丘林における砂の採取により、かつてミコアイサが繁殖していた砂丘林と沼が消失しつつある。ミコアイサをサロベツに残すために、まず砂丘林全域におけるミコアイサの実態を把握することが重要である。そのうえで、ミコアイサの繁殖環境の悪化を防ぐために、砂丘林と湖沼群の保全が必要である。

サロベツの海岸砂丘林と湖沼群（富士元寿彦　撮影）